

テキサス大学医療技術学部歯科技工学科の概要

田 端 恒 雄

明倫短期大学 歯科技工士学科

Dental Laboratory Technology Education in UTHSCSA

Tsuneo Tabata

Department of Dental Technology, Meirin College

本誌第3 巻第1 号(平成12年3 月発行)においてテキサス大学サンアントニオ校医療技術学部の歯科技工学科をアメリカにおける歯科技工士教育の実例として取り上げ、そのカリキュラム、教育スタッフなどについて報告した。現在、アメリカには理学士の学位が取得できる教育施設(教育コース)が3 校あるが、1996年に創設された本校は全米で最も新しいコースとして注目に値する。今回は学生定員、学費、卒業生の技術レベルなどについて同校の教務主任の回答が得られたので同校の教育の実情について報告する。

キーワード：歯科技工士教育、テキサス大学サンアントニオ校、医療技術学部

Key words : Dental laboratory technology education, UTHSCSA, SAHS

1. はじめに

前回のテキサス大学サンアントニオ校歯科技工学科についての報告¹⁾は、入学案内文書やホームページを主な資料としたので、同校における教育の実情についてはやや隔靴搔痒の感を免れなかった。そこで同校の学生数、学生の性別、学費、卒業生の技術レベルその他について、現在UTHSCSA に在籍している山下潤朗氏に教務主任 D.Roosevelt 氏にインタビューをお願いした。学科の教育責任者である同氏の回答はアメリカにおける歯科技工士教育を知る貴重な内容と思われるので、その要点を報告する。

2. 歯科技工学科の学生数

教育施設の学生数については、ADA とThe US Air Force の基準がある。ADA の基準では教員1 名当たり学生15名、The US Air Force の基準では教員1 名当たり学生6 名となっている。UTHSCSA のDLTE (Dental Laboratory Technology Education 歯科技工学科)では、Certificate Program (2 年制の準理学士学位取得コース)は教員1 名に対して学生12名、Baccalaureate Degree Program (4 年制の理学士学位取得コース)は教員1 名当たり10名としている。そこ

で同校のCertificate Program (日本の短期大学に相当する)は最大48名まで受け入れ可能であるが、実際の学生数(1999年)は30名である。またBaccalaureate Degree Programでは24名まで受け入れ可能であるが、実際には5 名(1999年)となっている。ちなみに歯科衛生学科の学生定員(受け入れ可能最大数)は、Certificate Program 32名、Baccalaureate Degree Program 12 名、Master of Science Degree Program (理学修士取得コース)6 名である。

3. 学費

UTHSCSA は州立大学であるので州内の学生と州外の学生では学費に大差がある。アメリカの大学で見られることで州内出身(納税者親族)の学生は優遇されている。それぞれの金額は:

Certificate Program

第1 学年	1,600ドル (テキサス州出身者)
	7,000ドル (州外出身者)
第2 学年	900ドル (テキサス州出身者)
	20,000ドル (州外出身者)

Baccalaureate Degree Program

第1 学年	500ドル (テキサス州出身者)
	5,000ドル (州外出身者)

第2学年 500ドル (テキサス州出身者)
20,000ドル (州外出身者)

4. 学生の出願状況、性別など

歯科技工士という職種について、一般にはそれほど認識されていないので、学生募集には苦勞している。UTHSCSA の歯学部 (デンタル・スクール) 入学希望者は定員92名に対して2,500人くらいある (合格倍率約27倍)。そこでDLTE (歯科技工学科) はデンタル・スクールに入学できなかった受験生宛にDLTEの入学案内を送付している。

歯科助手あるいは退役軍人 (兵役終了者) からの入学者も多いせいで学生の平均年齢は約28歳と高い。女子学生の比率は、Certificate Programで40%、Baccalaureate Degree Programで50% とのことである。

5. 学科修了者の技術レベルと進路

2年制の短大課程 (Certificate Program) と4年制の大学課程 (Baccalaureate Degree Program) の修了者では歯科技工士としての技術レベルに差があるのか。また短大課程と大学課程の教育目的には、どのような違いがあるのか。これについて尋ねたところ、短大課程では、教育時間の95%が技術習練 (実習) に当てられている。これに対して大学課程での実習時間は全体の25%、残りの75%は、技工所の経営管理、人事管理、技工物の品質管理、トラブル解決法などの科目に当てられている。したがって歯科技工士としての技術レベルには、大きい差はないし、歯科技工士として勤務した場合、給料もほとんどかわらない。ただ短大修了者が勤務者なのに対して大学修了者は、技工所の経営者として自立していく。大学課程に在籍している学生の多くは、すでにラボを経営していて、それを改善、拡張するために学んでいるとのことである。とすればDLTEは、短大課程と大学課程に別の教育目的を設定していることになる。

技工所経営者が多いという大学課程修了者の収入は、歯科医より多く、歯学部さらに進む人は全くないそうである。アメリカでは、歯科医が上で歯科技工士、助手は下という上下関係は無くなりつつあり、歯科技工士は歯科医と対等な立場で歯科治療チームの一員として働いているということである。

6. おわりに

テキサス大学サンアントニオ校に新しく作られた医療技術学部歯科技工学科の教務主任 D.Rooseveltとの

インタビューを通じて浮かび上がってきた、アメリカの歯科技工士教育の実情は次のようになるであろう。(1) 歯科技工士という職種についての一般市民の認識は残念ながらもまだ深くない。義歯はいまだに歯科医が作っていると思っている市民が多い。(2) 入学者の定員確保に苦勞している。歯科技工士の職種について一般市民にどうしたらもっと知って貰えるか、がこれからの課題である。(3) 卒業時に理学士の学位が得られる大学課程を出た、学生の多くは技工所の経営を目指し、歯科医より多い収入がえられるのであらためて歯学部に進む人は全くないという。ドクターとナースが対等の立場で医療の現場に臨んでいるのと同様に歯科医と歯科技工士が歯科治療チームの中で対等のメンバーと成りつつある、アメリカならではのことと思われた。

今回のインタビューで Roosevelt 氏はDLTEの教育目標として次のように語っている。

DLTE における教育の目標は、「歯科医療チームの中でその一員として活躍できて、しかもチームのあり方にも影響を与えることができるような技術と職業倫理を持った歯科技工士を養成すること」にある。

歯科技工士教育に関係している者にとって印象深い言葉である。

おわりにテキサス大学サンアントニオ校歯学部勤務し、研究の多忙の中でD.Roosevelt 氏とのインタビューを行って下さった山下潤朗氏に心から御礼申し上げます。同氏のご協力が無ければ、この報告ができなかったことは申すまでもありません。

文 献

- 1) 田端 恒雄：アメリカにおける歯科技工士教育について. 明倫歯誌, 3 (1) : 3-6, 2000